

中小学校だより

October 2nd. 2018 号外

全国学力学習状況調査の結果について

4月に6年生に実施した「全国学力学習状況調査」について、中小学校では「どんな観点に十分に力がついていて、またどんな観点に弱さがあるのか」を考察しました。

国語Aにおいて（基礎的・基本的な知識や技能の習得をみる問題）

- 自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える。
- 目的の応じて必要な情報を伝える。
- 登場人物の心情について、情景描写をもとに考えることができる。
- 相手や場に応じて適切に敬語を使う。
- 漢字を文の中で正しく使う。 ※無回答が多い問題
- ▲文の中における主語と述語との関係に注意して文を正しく書く。 ※無回答が多い問題

国語Bにおいて（活用する力をみる問題）

- 計画的に話し合うために司会の役割についてわかっている。
- 話し手の意見をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。 ※
- 推敲するためには、他のものと比較して書くことでよさが伝わることをわかっている。 ※
- 目的に応じて文章の培養を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく読む。 ※
- ▲目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く。
- ▲目的に応じて複数の本や文章などを選んで読む。 ※

中小学校の子も達の国語Aの力は、全国や県の平均をやや上回るものでした。漢字や言葉の意味など、基礎的・基本的な事柄の定着という点では概ねできていると思われます。また、普段から言葉遣いに気をつけている中小学校の子も達は、「話す」ことは比較的得意なようです。しかし、「目的や意図に応じて、根拠を明らかにしながら自分の考えを明確に（詳しく）書く。」という点にまだまだ弱さがあります。県平均や全国平均を上回っていても、全く問題に手を付けていない「無回答」が多い問題があることも気になります。（※のついた問題）

これまでも、国語の時間で学習課題について「根拠を明らかにして自分の考えを記述する」活動は継続してきましたが、今後も主語や述語に注意しながら少し長い文を読んで要旨を簡潔にまとめたり、少し長い文章を書くような活動に力を入れていきたいと考えます。また、一度読んだだけでは「少しわかりづらいなあ」と感じて簡単にあきらめてしまうのではなく、繰り返し読んで途中までも自分の考えを書けるような活動にも力を入れていきます。

算数Aにおいて（基礎的・基本的な事柄の定着をみる問題）

- 除法で表すことができる二つの数量関係を理解している。
- 1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる。 ※
- 小数の除法の意味について理解している。 ※
- 異種の2つの量の混み具合の比べ方を理解している。
- 180° より大きい角の大きさの求め方を理解している。
- 空間の中にあるものの位置を表すことができる。 ※
- 直径の長さとお周の長さの関係について理解している。 ※
- ▲数の大小について理解している。

- ▲百分率を求めることができる。※
- ▲折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる。※

算数Bにおいて（活用の力をみる問題）

- 合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に，条件に合う図形を見付けることができる。
- 示された考えを解釈し，条件を変更して数量の関係を考察し，分配法則の式に表すことができる。※
- ▲集まった角の大きさの和が 360° になることを記述できる。※
- ▲示された条件に合う時間を求めることができる。
- ▲根拠を明確にして記述できる。※

中小学校の子どもの算数Aは県の平均・全国平均を上回りました。基礎的・基本的な事柄の定着や活用という点では概ねできていると思われます。算数Bは県平均・全国平均とほぼ同じでした。しかし、国語と同様に、問題の解決に必要な条件を選び出して、「根拠を明らかにして自分の考えを書く。」という点にまだまだ弱さがあるようです。国語同様、ポイントは低くはなくても比較的長文の問題に対しての無回答が多いのが気になります。（※の問題）また、グラフから変化の様子を読み取って答える問題にも弱さがあります。

これまで算数の時間の学習課題に対する自分の考え方をノートに記述し、仲間と伝え合う活動を通して、より合理的な見方や考え方を定着させていくような学習活動を続けてきた結果、少しずつ成果となって現れてきています。今後も、基礎的・基本的な事柄の定着を図るような習熟の時間の充実は図っていきませんが、身に付けた「見方や考え方」を活用していくような授業にもさらに力を入れていきます。

理科

- 鳥の翼と人の腕のつくりについてのまとめから、どのような視点をもとにまとめたのかを選ぶことができる。
- 土地の浸食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる。
- より妥当な考えをつくり出すために、複数の情報を関係づけながら分析して考察できる。
- 電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる。
- 太陽の一日の位置の変化と光電池に生じる電池の変化の関係を目的にあったものづくりに適用できる。
- 濾過の適切な操作方法をみにつけている。
- 食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導き出す結論を書く。※
- ▲人の腕が曲がる仕組みについて、示された模型を使って説明できる内容を選ぶ。※
- ▲野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ。
- ▲乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用できる。
- ▲食塩水を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ。※

中小学校の子どもの理科の力は県や全国の平均をやや上回るものでした。しかし、国語や算数でも気になった無回答があります。（※の印の問題）解答に自信がもてない場合にも簡単に諦めるのではなく、自分のこれまでの生活経験や実験から考えられることをもとに予想を立てたり考察をしたりした文章を書く活動を今後も続けて取り組んでいきます。